

# とやま 保険医新聞

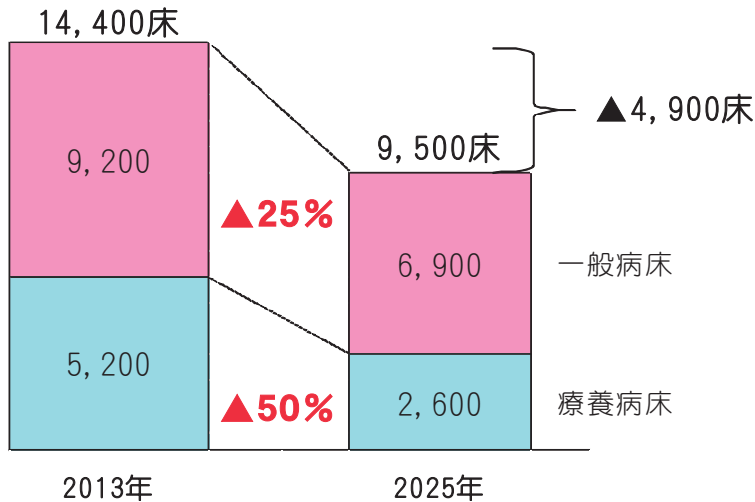
2015年 富山県保険医協会  
6/25 富山市桜橋通り6-13、フコクビル11階  
第371号 (076) 442-8000、FAX 442-3033  
発行人 矢野博明  
(年間購読料6,000円・一部500円)

## 2025年の富山県の将来病床数で政府推計

### 一般25%、療養50%の削減・転換を提示

### 協会、受け皿なき病床削減に反対

富山県の病床数（2013年）と2025年の政府推計



政府の専門調査会は六月十五日、二〇二五年の将来必要病床数の都道府県別推計を発表しました。富山県については、現状から三割以上の減少となる四九〇〇床を削減し、九五〇〇床と推計しています。来年春頃の策定が予定されている富山県地域医療構想を前に政府が先駆けて示した形で、今回の病床削減推計を通じて医療費を抑制したい国の強い姿勢が見て取れます。

【関連記事2、3面】

- 本号の見どころ
- 政府が将来必要病床数を発表 (2,3面)
  - 開示資料②「平均点数の分布」 (4面)
  - 開示資料③「医科指摘事項」 (5,6面)
  - 歯科個別指導・監査講習会② (7面)
  - 日本酒を楽しむ② (8面)

### お口の大切さを考える健康フォーラム

#### 口呼吸は万病のもと 鼻呼吸と口腔ケアで健康作り

あいうべ体操の提唱者  
みらいクリニック(福岡市)・内科医

講師 **今井一彰** 先生

日時 **7/11(土) pm7:00~9:00**

会場 **タワー111 スカイホール**

対象 医師・歯科医師ほか医療職  
介護、保健・教育関係者など

主催 **富山県保険医協会**

参加費 **無料**

#### スタッフとともに聞いていただきたい

真生会デンタルクリニック 院長 稲田 雅一

今井先生は「口呼吸を鼻呼吸に」というテーマで全国で講演をなされています。私も口呼吸の弊害は歯科医として知っていましたが、全身との関連については未知数でした。

昨年11月に当院に招待し、100名近くの参加者で聞かせて頂きました。講演を聞いてびっくりです。参加したスタッフはもちろん医師の皆さんからも、「大変素晴らしい講演内容だった、目からうろこの講演だった。時間が経つのが感じられなかった」などとてもうれしい感想をもらいました。多くの医療従事者や学校関係のみなさんに聞いていただきたい内容だと思います。

当院であいうべ体操・ロテープを取り入れた結果、「義歯の安定がよくなった、唾液がでなくて口が渴いていたが、出るようになった。風邪をまったくひかなくなった」などうれしい報告を患者から受けるようになりました。

是非スタッフとともに参加されることをお勧めします。

今回の推計は、政府の「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会」がまとめ、公表したもの。全国の既存病床数一三四・七万床(一般病床一〇〇・六万床、療養病床三四・一萬床)に対し、二〇二五年の必要病床数は一一五万・一九万床程度と推計。現状より一〇%超の病床削減を求めています。

療養病床だけでなく一般病床も大幅な削減

推計は、都道府県ごと、及び四つの医療機能(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)ごとに算出され、都道府県による差が大きい

結果となっています。富山県については、一万四四〇〇床ある病床を九五〇〇床とする内容で、県内病床数の三分の一となる四九〇〇床(一般三〇〇〇床、療養二六〇〇床)を削減・転換させるとしています。富山県は他県と比較して療養病床数が多いとされてきた県ですが、今回の推計では一般病床数についても、二五%に及ぶ削減を迫っています。

協会は今後、受け皿なき病床削減の方向には反対するとともに、県内での様々な議論を通じて、あるべき医療・介護のかたちを構築する立場で行動していきます。

### 医科歯科合同企画・審査問題研修会

#### 支払基金における審査の現状と方向性

～ 審査委員会の役割と課題にふれて ～

石川県社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員長  
元独立行政法人国立病院機構金沢医療センター院長

講師 **木田 寛** 氏

日時 **7/2(木) pm7:30~9:00**

会場 **ボルファートとやま 4F**

対象 会員および会員医療機関のスタッフ

木田先生は、支払基金の本部が2013年から開催している「保険診療と審査を考えるフォーラム」において、審査の現状に関する基調講演をたびたび担当されています。

また、保団連が昨年11月に開催した「審査指導監査対策担当者会議」では記念講演を行われ、審査委員会の役割や再審査請求の意義などに関する説明に加えて、保険者の直接審査を促す動きや報道について「長年かけて築き上げてきた保険診療の適正な範囲の判断崩壊とそれに伴う支払い遅延に結びつくことが危惧される」と警鐘を鳴らしておられます。

北陸新幹線がようやく金沢まで開通したが、一鉄道ファンの戯言へのお付き合いにご辛抱いただきたい。

富山にとって輸送需要が東京を大きく上回る京阪神中京は積み残されたままどころか、富山・金沢間が理不尽にも三セク化された。これまでは特急一本で行くことができたが、金沢駅での乗り換えが必要となってしまった。富山県民は踏んだり蹴ったりである。

ところで新幹線未着工の敦賀・京都間九四キロのうち七四キロは湖西線だ。ほぼ新幹線に近い規格でつくられた踏切のない路線である。そのレベル幅を新幹線と同じ標準軌に上げ、ミニ新幹線車両を導入すれば新幹線として十分使えるはず。

そもそも、新幹線は車両が大きすぎる異常な規格だ。同じ標準軌のレベル幅に在来線サイズの車両を乗せるミニ新幹線が世界標準であり、仏TGVもこのサイズである。山陽以降の新幹線はこのサイズで建設すべきであった。そうすれば、建設費が相当節約になった。一方、フリーゲージトレインの導入など言われているが不可能だと思える。

富山駅から利用できる湖西線転用による北陸新幹線の、一刻も早い全通を望みたい。(H・M)